

研究業績書

(31年4月7日作成)

専門分野	文学 アメリカ演劇	氏名	伊藤 佳世子
著書・学術論文の名称、単著・共著の別、発行所・発表雑誌・発表学会の名称(巻)、発行・発表の年月、最初と最後のページ(共著の場合は、共同執筆者名、担当部分のページ)			
<p>[著書]</p> <ol style="list-style-type: none"> 『決定版 英語エッセイライティング』共著 コスモピア 2005.12 門田修平監修・著 伊藤佳世子、氏木道人、担当部分：「Unit 2.アウトラインを決める」 pp.50-61 「Unit 9.語句のつながりと内容の一貫性」 pp.172-179 「Unit 10 パンクチュエーションの使い方」 pp.180-195 「主語と文の特徴：主語の扱い方」 pp.80-87 <i>The Play Writing of Eugene O'Neill —Its Process and Technique—</i> 単著 BOOK EAST 2007.4 Kayoko Ito 『「夫婦の危機」からの脱出—わが子を亡くした夫婦達の物語』共訳 技秀堂 2008.1 中林眞佐男監訳 担当部分：「第6章 命の重み—ダウナード夫妻の場合—」 pp.145-171 「第8章 心の声を聴く—ソーダース夫妻の場合—」 pp.205-238 『Power Charge for the TOEIC Test』共著 金星堂 2009.1 西田晴美、吉田佳代、伊藤佳世子 担当部分：Unit 1 から Unit 15 まで全ての Part 1, Part 5, Part 7, コラム 『Alice's Adventures in Wonderland』共編註 英光社 2010.3 丸橋良雄、伊藤佳世子 『女性・演劇・比較文化』共著 英光社 2010.4 丸橋良雄編著 担当部分：「舞台における幻想の表出—audible thought の試み—」 pp.131-144 『比較文化の饗宴』共著 英光社 2011.5 丸橋良雄編 担当部分：「Eugene O'Neill のコメディ—<i>Ah, Wilderness!</i>— 上演スクリプトからみえるもの—」 pp.198-209 『The Next Stage To The TOEIC Test. Intermediate』共著 金星堂 2011.10 ハーバート久代、伊藤佳世子、村上裕美、John C. Herbert 担当部分：Unit 1 から Unit 15 まで全ての Part 1, Part 5, Part 7, コラム 『越境する文化』共著 英光社 2012.5 丸橋良雄編 担当部分：「Eugene O'Neill 反戦へのメッセージ—<i>The Sniper</i> と <i>Shell Shock</i> における表出手法とシンボルワード」 pp.152-166 『Get It, Essay Writing』共著 大阪教育図書 2013.4 時岡ゆかり、伊藤佳世子、Martin Wetherby 担当部分：Unit 1 から Unit 13 まで全ての構成、コラム、問題作成、構成、TM 『増補改訂版 決定版英語エッセイライティング』共著 コスモピア 2014.10 門田修平監修・著、氏木道人、伊藤佳世子 担当部分：「Unit 1 エッセイ・ライティングに向けてウォームアップ」 pp.18-30 「Unit 3 アウトラインを決める」 pp.54-64 「Unit 9 つなぎ語を使う」 pp.142-153 「Unit 10 語句のつながりと内容の一貫性」 pp.154-159 「Unit 11 パンクチュエーションの使い方」 pp.170-181 『比較文化 グローバルコミュニケーション』共著 英光社 2015.5 丸橋良雄、伊藤佳世子監修 『英検4級 頻度別問題集』単著 高橋書店 2015.4 伊藤佳世子 『Fairy Tales 童話で学ぶ英語の四技能』共著 英光社 2015.9 丸橋良雄、伊藤佳世子、能勢卓、立本秀洋、西美津子 担当部分：Unit 1 から Unit 10 まで全ての Reading Section、Grammar Section、Writing Section 『清脩 Vol.52』共著 京都大学図書館機構報 2015.7 担当部分：「語学学習のための図書館活用術—英語学習コーナーを通して理解しよう世界のこと、考えてみよう自分のこと」 p.2 <p>[学術論文]</p> <ol style="list-style-type: none"> “A Study of Dialogue in Eugene O'Neill's Expressionism”単著 <i>Studies in the Humanities</i> Vol.1, No.1 1999.9 pp.101-115 「EUGENE O'NEILL のユーモア—『日陰者に照る月』の場合—」単著 『賢明女子学院短期大学研究紀要』第35号 2000.3 pp.53-62 “O'Neill's Uses of Reporting Form: In <i>Hughie</i> and Some Other One-Act Plays”単著 <i>Studies in the Humanities</i> Vo.2, No.1 2000.9 pp.125-140 			

著書・学術論文の名称、単著・共著の別、発行所・発表雑誌・発表学会の名称（巻）、
発行・発表の年月、最初と最後のページ（共著の場合は、共同執筆者名、担当部分のページ）

4. 「語り手の役割について—Tennessee Williams の場合—」単著『大阪産業大学論集 人文科学編』 第 108 号
2002.10 pp.1-10
5. 「CALL 教室における英作文指導から発表まで」単著 『外国語教育の現場から』 SILEC, No. 6 2005.6
pp.11-18
6. “Dramaturgical Impact in the Characteristic of the Use of ‘fog’ in *Anna Christie*”単著 *The Sapientia University Review* Vol.39 2005.2 pp.87-99
7. 「日本人英語学習者の発話データにおける談話連結詞の頻度分析」共著 『関西レビュー』第 23 号
関西英語英米文化学会 2005.3 門田修平、氏木道人、伊藤佳世子
8. “Plot and Narration in O’Neill’s Drama—In the case of *Anna Christie*—”単著 *Studies in the Humanities* Vo.7, No.1
2005.9 pp.73-86
9. “An Aspect of Dramatic Literature of Eugene O’Neill—A study of His Usage of Stage Directions—”単著
The Sapientia University Review Vol.40 2006.2 pp.105-1167
10. “*Death of Salesman* and *All My Sons*: the Motif of ‘Belonging’”単著 *Studies in the Humanities* Vo.8 2006.12
pp.39-55
11. “What Was O’Neill Seeking When He Created His Short Stories? — An Examination of *Tomorrow* and Its
Manuscripts—”単著 *The Sapientia University Review* Vol. 41 2007.2 pp.289-303
12. 「シャドーイングを活用した英・仏語教育」共著 『外国語教育の現場から』 Center for Cross-Cultural
Exchange St. Thomas University (SILEC) No. 9 2008.4 武田 裕紀 伊藤佳世子
13. 「シャドーイングにおける発音のメカニズム」単著 『Kansai Review』第 25, 26 合併号 2009.3 pp.41-49
14. 「シャドーイング音声を対象とした自動評価の高精度化に関する検討」共著 『日本音響学会秋季講演論
文集』2-5-9 2016.10
15. 「多人数同時発声環境における効果的なシャドーイング音声収録に関する検討」共著『日本音響学会秋季
講演論文集』3-Q-27 2016.10 峯松信明、楽俊偉、山内豊、伊藤佳世子
16. 「シャドーイング手動スコアリングと DNN に基づく GOP を用いたスコア予測」共著『日本音響学会春季
講演論文集』2-P-312 2017.3 楽俊偉、塩澤文野、外山翔平、畑アンナマリア知寿江、山内豊、伊藤佳
世子
17. 「DNN-GOP と DNN-DTW に基づくシャドーイング音声自動評価の高精度化」共著『日本音響学会春季講
演論文集』2-P-31 2017.3 梶島優、塩澤文野、齋藤大輔、峯松信明、山内豊、伊藤 佳世子
18. 「英語シャドーイング音声の自動評価に向けて—教員による評価データの分析を中心に—」共著『電子情
報通信学会技術研究報告書』2017 号 2017.9 pp.13-18 坪田康、伊藤佳世子
19. "Automatic Scoring of Shadowing Speech based on DNN Posteriors and their DTW" 共著 *INTERSPEECH*
pp.1422-1426 2017.8 J. Yue, F. Shiozawa, Shohei Toyama, Yutaka Yamauchi, Kayoko Ito, Daisuke Saito, and
Nnobufuki Minematsu
20. 「第二言語リーディングの指導と学習—6. リーディング授業で文学教材を使用する有用性—」単著
JACET Kansai Journal 第 20 号 2018.3
21. 「シャドーイング音声自動評価における耐雑音化と回帰を用いた高精度化」共著 『研究報告音声言語情
報処理 (SLP)』2018.7 pp.1-6 梶島優、齋藤大輔、峯松信明、山内豊、伊藤 佳世子

〔口頭発表〕

1. 『女性学とは』 ニューポート大学西日本校冬季特別講演 1998.12 開催場所：ニューポート大学西日本校
2. 『比較文化とは—文学作品を中心に—』 ニューポート大学西日本校夏季特別講演 1999.8 開催場所：ニ
ューポート大学西日本校
3. “Seeking for Effective Instruction for Reading: The Impact of Shadowing and Reading-aloud Tasks.”
An International Joint Forum on 1st and 2nd Language Sciences. 2006.3 開催場所：Hawaii University
4. 『奇なるもの“fog”の効果—*Anna Christie* における霧の役割』 2004 年日本演劇学会春の全国大会
2004.6 開催場所：早稲田大学
5. 『Eugene O’Neill 語り手の役割について』第 50 回関西英語英米文化学会 2004. 12 開催場所：大阪産業大学

著書・学術論文の名称、単著・共著の別、発行所・発表雑誌・発表学会の名称（巻）、発行・発表の年月、最初と最後のページ（共著の場合は、共同執筆者名、担当部分のページ）

梅田サテライト

6. 『オニール劇の語り』 JACET リーディング研究会 2005.5 開催場所：関西学院大学
7. 『CALL 教室におけるプレゼンテーション指導』 英知大学外国語教育センター研究会 2005.7 開催場所：英知大学
8. 『シャドーイングとリーディング力との関係』 日本大学英語教育学会（JACET）関西支部大会ワークショップ 2005.8 開催場所：神戸大学
9. 『CALL 教室でのシャドーイング実践』 関西英語教育学会（KELES）第10回記念研究大会 2006.5 開催場所：龍谷大学
10. 『オニールのト書『*Tomorrow*』を中心に』 2006年日本演劇学会春の全国大会 2006.6 開催場所：成城大学 『アーサー・ミラーの悲劇について ―‘belonging’を中心に』 第51回 関西英語英米文学会シンポジウム 2006.6 開催場所：大阪産業大学
11. 『シャドーイング指導の実践―明日から使うためのコツ―』 関西英語教育学会（KELES）ワークショップ 2006.7 開催場所：関西大学
12. 『シャドーイングを利用した英・仏語教育』 第46回外国語教育メディア学会（LET）全国研究大会 2006.8 開催場所：龍谷大学
13. 『効果的な読解指導法を求めて：音読・シャドーイングが読解に及ぼす影響』 第45回日本大学英語教育学会（JACET）全国大会シンポジウム 2006.8 開催場所：関西外国語大学
15. “How Does Shadowing Influence the Reading Comprehension for EFL Learners?” AILA 2008 The 15th World Congress of Applied Linguistics. Symposium 2008.9 開催場所：Essen University, Germany
16. 『Eugene O’Neill 削除だらけの原稿』 第53回関西英語英文学会 2009.6 開催場所：大阪産業大学
17. 『翻訳表現の可能性を探る』 日本英語表現学会第43回全国大会シンポジウム 2014.6 開催場所：武蔵大学
18. 『童話の物語文法』 保育学科のための文学学習会 2014.11 開催場所：京都聖母女学院短期大学
19. 『シャドーイング訓練をユビキタスに自主学習できるシステムの構築と実践』 JACET 文学教育研究会 2015.4 開催場所：同志社大学
20. 『リスニング力強化のためにシャドーイングをタブレットやスマホで自主学習できるシステムの構築』 第55回外国語教育メディア学会（LET）全国研究大会 2015.7 開催場所：千里ライフサイエンスセンター
21. “Strengthening English listening skills: The development of a self-study shadowing system for tablets and smart phones” Foreign Language Education and Technology (FLEAT) 2015.8 開催場所：Harvard University, USA
- 22.
23. 『英語シャドーイングの音声収録における諸問題と対策』 JACET リーディング・英語語彙・英語辞書研究会合同フォーラム 2017.3 開催場所：早稲田大学
24. 『ディープラーニングを用いたシャドーイング音声の自動評価』 JACET 言語教育エキスポ 2017 2017.3 開催場所：早稲田大学
25. “Automatic Scoring of Shadowing Speech based on DNN Posteriors and their DTW” Inter Speech 2017 2017.3 開催場所：Stockholm University, Sweden
26. “Development and Maintenance of Practical and In-service Systems for Recording Shadowing Utterances and Their Assessment” Speech and Language Technologies in Education (SLaTE) 2017 2017.3 開催場所：Djuronaset, Sweden
27. “Investigation of teacher-selected sentences and machine-suggested sentences in terms of correlation between human ratings and GOP-based machine scores” Speech and Language Technologies in Education (SLaTE) 2017 2017.3 開催場所：Djuronaset, Sweden
28. “Automatic evaluation of simultaneous L2 oral reproduction tasks with a deep learning-based algorithm” Architectures and mechanisms of Language Processing 2017 2017.3 開催場所：Lancaster University, UK
29. “DNN-based GOP Calculated on Shadowing Speeches and Its Approximation to Their Manually Rated Scores” 日本音響学会 2017年春季大会 2017.3 開催場所：明治大学
30. 『創発的な英語シャドーイング活動に向けて』 第130回次世代大学教育研究会 2017.5 開催場所：長崎大学
31. 『日本人大学生に対するシャドーイング音声評価結果の分析』 2017年度 JACET 関西支部春季大会 2017.6 開催場所：甲南大学
32. 『多言語に対応したシャドーイング音声自動評価に関する実験的検討』 外国語教育メディア学会（LET）

著書・学術論文の名称、単著・共著の別、発行所・発表雑誌・発表学会の名称（巻）、
発行・発表の年月、最初と最後のページ（共著の場合は、共同執筆者名、担当部分のページ）

第 57 回全国研究大会 2017.8 開催場所：名城大学

33. 『シャドーイング自動評価の精度向上と学習者の英語熟達度との関係』外国語教育メディア学会第 57 回全国研究大会 2017.8 開催場所：名城大学
34. 『英語の繰り返しやすさについて』第 135 回次世代大学教育研究会 2017.10 開催場所：函館高専
35. 『英語シャドーイング音声の自動評価に向けて一教員による評価データの分析を中心に一』電子情報通信学会 思考と言語研究会 2017.9 開催場所：京都工芸繊維大学
36. 『シャドーイング自動評価開発のための音声データ収集の検討』2017 年日本英語表現学会第 46 回全国大会 2017.12 開催場所：大阪電気通信大学
37. 『シャドーイングを活用した話すこと（発表）と話すこと（やりとり）活動の設計の一検討』次世代大学教育研究会 2018.1 開催場所：琉球大学
38. 『DNN-GOP と DNN-DTW に基づくシャドーイング音声自動評価に高精度化』日本音響学会 2018 年春季研究発表会 2018.3 開催場所：日本工業大学
39. “Measurement Accuracy Comparison of a New Deep Learning-based Algorithm with a Traditional Algorithm in Automatic L2 Oral Assessment” American Association for Applied Linguistics (AAAL) 2018.3 開催場所：Chicago, USA
40. 『話すためのシャドーイングの試みー高校生を対象にしてー』第141回次世代大学教育研究会 2018.4 開催場所：京都工芸繊維大学
41. 『継続的なシャドーイング訓練が総合的熟達力の伸張に及ぼす影響』外国語教育メディア学会第 58 回全国研究大会 2018.8 開催場所：千里ライフサイエンスセンター
42. “Development of an innovative multi-lingual system for automatic evaluation of L2 oral reproduction tasks using a deep learning algorithm” Architectures and Mechanisms for Language Processing (AMLaP) 2018 2018.3 開催場所：Titanic Hotel Chaussee Berlin, Germany

〔文部科学省科学研究費補助金〕

基盤研究 B

課題番号：16H03447 『自律的な英語シャドーイング学習を目指した自動評価と教材データベースの開発』
2016～2019 年度 19,970,000 円 （研究代表者）

著書・学术论文の名称、単著・共著の別、発行所・発表雑誌・発表学会の名称（巻）、
発行・発表の年月、最初と最後のページ（共著の場合は、共同執筆者名、担当部分のページ）

著書・学术论文の名称、単著・共著の別、発行所・発表雑誌・発表学会の名称（巻）、
発行・発表の年月、最初と最後のページ（共著の場合は、共同執筆者名、担当部分のページ）

著書・学术论文の名称、単著・共著の別、発行所・発表雑誌・発表学会の名称（巻）、
発行・発表の年月、最初と最後のページ（共著の場合は、共同執筆者名、担当部分のページ）